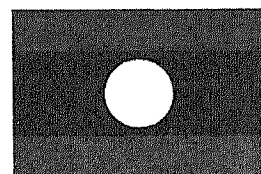


# 日本から世界へ ～ラオスを見つめて～



Laos

薄井 可奈

練馬区立大泉第三小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：6時間
- 対象：小学5年生
- 対象人数：34名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・外国の文化や習慣を知り、他国に興味・関心をもつ。
- ・考え方の多様性に気が付き、相手を尊重する姿勢を養う。
- ・ラオスと日本の生活や暮らし、文化、内面での共通点や相違点を見つけ、支援の必要性に気が付く。

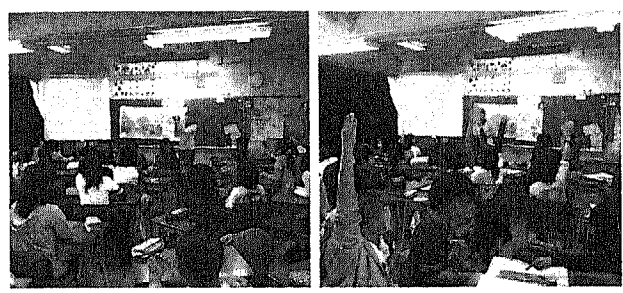
## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【ラオスの扉を開こう】 ラオスの概要とラオスの農業・水事情を知る。	①ラオスの紹介 ②ラオスの稲作(フォトランゲージ) ・1枚の写真を見て気が付くことを発見する。 ③動画でラオスの稲作を知る ・機械、民族間の稲作の違い、子どもの様子等 ・ラオスと日本のお米を比較する。 ④水事情 ・井戸に溜まっている水の使い道を予想する。	・世界地図 ・ラオス拡大図 ・国旗 ・写真 ・動画
2	【ラオスで活躍する日本人】 ラオスの医療と農村部の生活を知る。	①自分たちの生活を振り返る ・最近出かけた場所、行くことができた理由などから病院の大切さに気がつく。 ②ラオスの病院 ・病院の写真を見て気づいたことを発表する。 ③ラオスと日本の比較 ・出生率と死亡率を対比して考える。 ④農村部の生活 ⑤死亡率の高い原因を考える ⑥青年海外協力隊員 ・この病院に勤務している日本人を見て、ラオスの医療に貢献する日本人がいることを知る。	・写真 ・表
3	【ラオスと日本を比べよう】 ラオスの子どもたちの写真からラオスと日本の共通点や相違点を見つける。	①前時までの学習から ・今までの学習で気がついた二国間の共通点や相違点を発表する。 ②ラオスの子どもたち ・ラオスの学校や図書館での子どもたちの写真を自由に見歩き、共通点や相違点を見出す。 ③共通点を発表 ④アンケート比較 ・「今一番欲しいもの」「夢」「大切なもの」の3つの視点で、ラオスの子と5年2組内の思いを比較し、「ランキング」から共通点を考える。	・写真 ・アンケート結果

<p>4 5 6</p>	<p><b>【私たちにできること】</b> ・ 同じ地球人でも違いがあることを知り、その違いを相手の気持ちに立って考え、支援の必要性に気が付く。</p>	<p>①相違点の分類 ・ 前時で発見したラオスと日本の相違点を『違って良いもの』『違っていけないもの』に分ける。 ②「違って良い・違っていけない」を討論する。 ・ 田植えの方法 ・ 低出生体重児についての考え方 ③相違点の再度分類 ④私たちにできること ・ 観点別に分けたキーワードから5年2組ができることを「ウェビング」する。 ⑤「世界がもし100人の村だったら」</p>	<p>・ 「世界がもし100人の村だったら」</p>
----------------------	--	---	----------------------------

**【3】授業の詳細**

**1次限目：【ラオスの扉を開こう】**

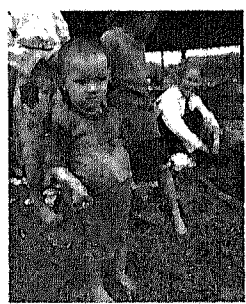


**<展開1>ラオスの紹介**

- ・ 位置・国の形・隣接国・メコン川・人口・面積
- ・ 日本とラオスの距離・移動時間・国旗

**<展開2>フォトランゲージ**

- ・ 高床式建物の周りにいる家族の写真を見て、気付いたことを書き込む。
- 建物や人のいる場所を川の傍・市場の裏と予想したが、正解は水田。写真の様子を動画で見せた。



・ 児童は、今年から耕運機が導入されたことを知り、大変驚いていた。また、ラオ族とモン族の稲作の違いの様子を見て、なぜだろうと疑問を抱いた児童が多かった。

**<展開3>堀井戸の水の使い道を知る。**

- ・ 児童はトイレ、食器用の水、足洗い用の水と答えた。
- 飲み水だと分かった時の児童は、「えー！」という反応を示した。



**児童の感想**

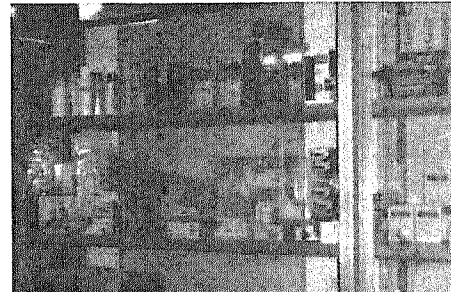
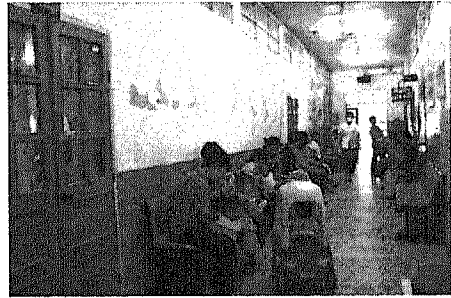
- 濁った水をのんでいることに驚きました。私は水をもって行ってあげたいと思いました。
- 私たちだけきれいな水を飲んでいるなんて不平等だと思いました。
- 休日はちゃんと家族と過ごして田のお手伝いを子どもたちがしていて感心しました。
- ラオスも稲を育てているなんて知りませんでした。国の中でも田植えの方法が違ったので驚きました。
- 日本ではトラクターで田植えをやっているのに、ラオスでは1年前まで牛で引いていて、今年やっと耕運機が入ってきたと知り、日本は便利だと思いました。
- 日本とラオスの生活の違いを調べてみたくなりました。ラオスでの仕事は何があるかと思いました。
- 外国のことを知り、世界を広げていきたいと思いました。

**2時限目：【ラオスで活躍する日本人】**

病院の数や設備がこんなにも違うことを知り、悲しむ児童が多かった。死亡率が多い原因として、  
 <衛生的でない・医者数が足りない・設備の不足・知識が足りない・技術が遅れている・薬の種類が少ない・交通の便が悪い>など、病院の写真や農村の生活から、問題を読み取った。

**児童の感想**

- 世界の国々にはとても悲しい所があり、そういうのを助けるために「ユニセフ」があるのかなぁと思いました。また、日本人がそういう大変な所で毎日努力していたので、すごいなぁと思いました。
- ラオスは日本より死んでしまう数が多いなんて悲しいと思いました。国の違いで死んでしまう人の数が多かったりしてしまうのは悲しいと思いました。
- 僕がもしラオスにいたら、がんばって大人まで生き延びて、他にやりたい夢があっても、お医者さんになっていたかもしれません。
- 青年海外協力隊の人たちが、日本人だけではなく、他の国の人たちにも生きていてほしいと思って活躍しているのはとてもいいことだと思いました。

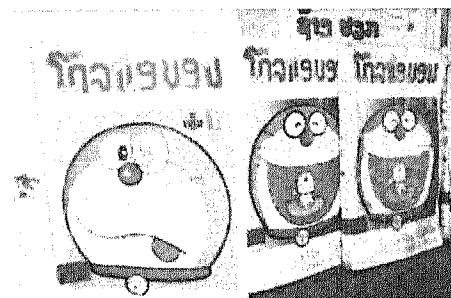
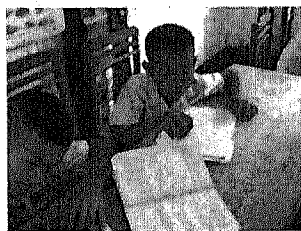
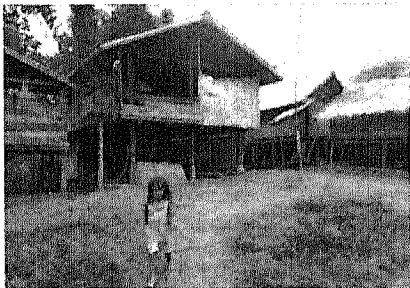


**3時限目：【ラオスと日本を比べよう】**

<展開1> 20枚の写真からラオスの子どもの姿を知る。(学校・図書館)

- ・写真を自由に見歩き、2人で1枚の紙に共通点・相違点を見つけ、書き込んでいく。

(農村、学校、病院、図書館の様子)



※挙げられた共通点・ドラえものの漫画・パーパパー・片仮名の本・教科書とノートを使って勉強・熱心に勉強・サッカーをする・PC・はしを使う・みんな笑顔 など  
 ・なぜ日本の本があるのだろうという疑問がたくさん出た。この場では教えず、児童の課題とした。

<展開2> 5年2組とラオスのアンケートで内面的な部分の共通点を発見する。

- ・大切なものが<家族・目に見えないもの・心の関係>であることが共通しているという意見が多く出た。

※ラオス現地では、生活観が「日本は仕事 8 割：家族 2 割。ラオスは仕事 2 割：家族 8 割」という話があり、その考えにも共感させられたが、基本的にはラオスも日本も家族を思う気持ちは変わらないことに気付かせたいと考えた。実際にアンケートでは、『家族が一番大切』と答えた児童が大半で、自分の思いと重なる部分があった。

### 【ランキング】

	5-2の子どもたち	ラオスの子どもたち
欲しいもの	1. なし 2. ゲーム 3. 本・漫画、CD	1. 勉強するための道具 2. 新しい家、自転車、携帯電話 3. 高等教育
将来の夢	1. スポーツ選手 2. 芸能関係 3. 科学者、薬剤師	1. いい仕事につく 2. 先生 3. 医者
大切なもの	1. 家族と過ごす時間 2. 友達という時間 3. 勉強	1. 特別な日に両親が買ってくれたプレゼント 2. 良い成績をとった時に両親が買ってくれたプレゼント 3. 両親からの愛情・友情

### 児童の感想

- どんな国でも友情が大切なんだなと思いました。他の国の様子を見ると、「向こうの国も面白そうだなあ」と思う時があるけれど、ラオスも住み着いてみると面白いことがたくさんありそうです。
- ほしいものは違うけど、大切なものはどこの国の人にも一緒なんだなあと感じた。ラオスの人たちは心の優しい人だと思った。人の命を救おうと思うラオス人に感心した。日本人も見習っていきたい。
- 今日の学習で、国や言葉が違って同じ所がたくさんあることが分かりました。最初は違うところばかり頭に浮かんで痛くなる程悲しかったです。国が違うだけでどうして?と疑問でした。しかし、こんなに共通している所がいっぱいあるんだと嬉しくなりました。授業もしっかり受けていてこんなにいいところなんだと興味をもちました。国や言葉が違うからこそ、心をつながなくてはならないと強く思います。
- これからはラオスにも何か役に立てることがあれば進んでしようと思います。
- 両親へのありがたさは、世界中どの国も同じなのかなと思いました。
- 僕は自分になりたい職業を夢にしているけど、ラオスの人たちは自分のためではなく、人のために働くことを夢にみているからすごいと思いました。

### 4～6時限目：【私たちにできること】

#### <展開1>相違点を2つに分類する。

- ・前時で発見したラオスと日本の相違点をく違つて良いもの><わからない><違って良い?もの>に分ける。違って良いものは、文化や言語・習慣という結果になった。

#### <展開2>2グループに分かれ、討論する。

この討論は、答えを見出すことではなく、考えを深めることをねらいとしている。

(1)『田植えの方法』(大人が機械で田植えを行う(日本)・大人と子どもが手作業で田植えを行う(ラオス))は違って良いか良くないかを討論する。  
⇒子どもたちの意見が分かれたテーマ

(2)『低出生体重児についての考え方』(出生時の体重が1000g以下だと助けない(ラオス)・1000g以下でも助ける(日本))は違って良いか、違って良くないかを討論する。  
⇒今回の研修で考えさせられたテーマ

※両討論も機械的に2グループに分け、その立場に立った意見を出し合った。活発な討論となり、最終的に考えが変わった児童もいた。(2)は「違ってはいけない、日本の立場を尊重したい」と思う児童が終始多かったが、(1)に関しては、両面のいいところに気がつける討論が行えた。ここで、利便性のみに捉われることなく、家族で行う稲作により、子どもたちが生き生きとしている姿、手伝いを積極的にする姿、家族のつながりを結びつける要因にもなっているのではないかなど、ラオスの良さにも目を向けて討論が行えた事が良かった。

#### <展開3>私たちにできること

違ってはいけない9つのキーワードから私たちができることを「ウェビング」する。「募金」という意見も多かったが、「医師などの人材派遣」「図書を寄贈する」「支援団体へ協力する」「エコキャップの回収」「ボランティア活動」「エコ活動」「学校建設」などの意見も出た。

学級では「ラオスの子ども」が行うラオス語絵本プロジェクトに協力することにした。

## <展開4> 「世界がもし100人の村だったら」

・ラオスと日本の関係から、世界も見つめられるよう、紹介した。この本を知っていた児童は1人だけで、皆真剣に聞いてくれた。さらに、グローバル化について話した。

### 児童の感想

- ラオスは日本と違う幸せをもっているんだなと感じました。日本は食べたり遊んだりして幸せだなと思うけど、ラオスのはのんびりして仲良く暮らしているのが幸せかもしれないと思います。大きくなったら、ラオスに行ってラオスをもっともっといい国にできたらなと思いました。でも、日本の幸せの通りにはしないでラオスはラオスの幸せに合わせてやれたらいいなと思います。ラオスはこれからどんどん成長していったってよい国をつくるのかなと思います。ぼくは、これからどんどんラオスを応援していきたいです。
- ラオスと日本の同じところ・違うところを知れて、ラオスをまねしたいなと思うことがあった。
- お金を寄付するのではなくて、日本人を派遣して知識を伝えることが大事だと思いました。
- あってはいけない違いがあると思います。先生の数が違うこと、病院の数、薬が少ない、本が十分に読めない、などは違ってはいけないと思います。

## 〔4〕 授業実践を終えて

教員2年目で開発教育に出会い、貴重な1年にすることができました。10日間の海外研修経験の中で培った様々な情報から選択することに頭を悩ませ、ねらい設定の難しさを感じ、日々葛藤しながら授業を計画しました。

クラスの一部の児童は外国に行った経験もあり、ラオスの存在を知っていましたが、大半の児童は外国をのぞくのが初めてで、ラオスという国名があること自体にも驚いていました。1時限目の感想で、「初めて自分が住んでいる国以外のことを知り、うれしかった。・・・ラオスの人はこんなにやさしくてフレンドリーなら私も仲良くしたいと思った。」と話す児童がいて、子どもの柔軟な気持ちに心打られました。また、子どもたちの吸収力・行動力にも気付かされました。

私たちの生活は地球上の一部にしかすぎないことへの気付きや文化の多様性、共通点を探すことで外国に親近感を抱くこと、相違点から支援を考えていくなどの目標は達成できたと思います。また、児童が自ら動き、放送やポスターで絵本を集める活動をし、学びを生かした取り組みができて嬉しく思います。

一方で、学級閉鎖・学校閉鎖などでタイミングの良い時間づくりができず、授業が飛び飛びになってしまった点や、他クラスに広められなかった点は課題です。また、授業内容でも、実際に経験できるような授業を考え、体験的な授業にもチャレンジしていきたいです。

今後の実践として、ラオスの病院建設プロジェクトと深く関わっていらっしゃる保護者に協力してもらい、ぜひチャンスを生かし、更に「ラオスを見つめて」を展開していきたいと思います。

## 〔5〕 参考文献(引用文献・参考資料)

- 『グローバル化とわたしたち - 国境を越えるモノ・カネ・ヒト -』 村井吉敬 岩崎書店 2006
- 『世界がもし100人の村だったら』 池田香代子・C.ダグラス・ラミス マガジンハウス 2001
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告書集』 JICA地球ひろば 2009

【6】 使用教材

【ワークシート①】

日本から世界へ～ラオスを見つめて～ 月 日 名前 ( )

◎何の写真だろう。

1. 自分の想像

2. みんなで考えたこと

3. 今日の学習を振り返っての感想

驚いたこと、興味をもったこと、ラオスについてさらに知りたくなったこと、日本とラオスの稲作の違いを知って考えたこと など

【ワークシート②】

日本から世界へ～ラオスを見つめて～ 月 日 名前 ( )

日本とラオスの同じところ	日本とラオスの違うところ	
○稲作や病院の様子から○	<日本>	<ラオス>

<今日の学習を振り返っての感想>

学習を通して考えたこと・気付いたこと・分かったこと など

【ワークシート③】

日本から世界へ～ラオスを見つめて～ 名前 ( )

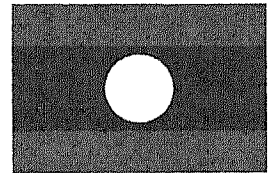
●(違って良い)ところは○、[分からない]ところには△、[違ってはいらない]ところには×で示そう。

<日本とラオスの違うところ>

日本	ラオス	○・△・×
①1人で一冊の教科書を使う	①2人で一冊の教科書を使う	
②お茶碗でごはんを食べる	②杯のような器でごはんを食べる	
③日本語を使う	③ラオス語を使う	
④授業中、手を合わせない	④授業中、手を合わせる( )	
⑤本が多くある	⑤本が少ない	
⑥学校へは私服で行く	⑥制服で行く	
⑦1000g以下(未熟児)でも助けよう	⑦1000g以下(未熟児)だと助けない	
⑧病室には十分薬がある	⑧薬が足りない	
⑨病院の数が多	⑨病院の数が少ない	
⑩大人が機械で田植えを行う	⑩大人と子どもが手作業で田植えを行う	
⑪医療の発達が早い	⑪遅い	
⑫先生の数が多	⑫少ない	
⑬たくさんの教室がある	⑬余分な教室はない	
⑭小学校が6年間	⑭小学校が5年間	
⑮室内で歯磨きをする	⑮外で歯磨きをする	

# お米ワールド

## ～お米で世界とつながろう～



Laos

三箇 昭子

北区立桐ヶ丘郷小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：5時間
- 対象：小学5年生
- 対象人数：28名

### (1) 授業実践のテーマ・目的

- ・ お米を通してラオスという国を知らせ、5年生の社会科で学習する日本の米作りと比較させる。
- ・ 自分たちの文化との相違点や共通点を考えることで、世界とのつながりを考えられるようにする。

### (2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【日本の米料理を調べよう】 お米が日本全国で工夫されながら食べられていることを知る。	・一人ずつ担当の都道府県を決めて米料理を調べて発表する。	・ 日本地図 ・ 郷土食の本 ・ ワークシート
2	【どこのお米かな?】 食べたご飯が「ラオス」という国のお米であることを知り、関心をもつ。	・ カゴに入ったもち米を食べる。 ・ どんなお米か観察し、感想を出し合う。 ・ ラオスのお米であることを知らせ、知りたいことを書き出す。	・ カゴ(ラオスで買ってきたお櫃) ・ ラオスのもち米 ・ ワークシート
3	【ラオスのお米を調べよう】 自分たちのもった疑問を中心にラオスのお米や暮らしを調べる。	・ インターネットや本を使って調べ活動をする。	・ 本 ・ インターネット
4	【ラオスのお米からわかったことを伝え合おう】 調べたことを発表しあい、ラオスではどのように米作りをしてお米を食べているのか、理解を深める。	・ グループごとに調べたことを発表する。 ・ ラオスの方に発表を見てもらう。 ・ ラオスと日本の相違点・共通点を考える。	・ 子どもたちの作った資料 ・ ワークシート
5	【世界の米料理を調べよう】 世界中で米料理が食べられていることを知り、つながりを感じる。	・ 一人ずつ国を決め、米料理を調べて発表する。	・ 世界地図 ・ ワークシート

### 〔3〕授業の詳細

#### 1 時限目：【日本の米料理を調べよう】

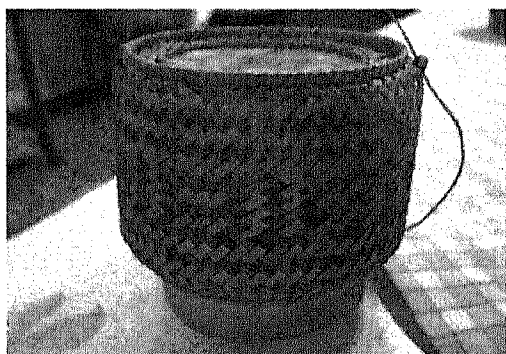
お米は普段からよく食べるもので、子どもたちにも身近な食べ物である。カレーライスやお寿司、おにぎりなど、よく食べるお米を使った料理が挙げられていった。全国的に同じように食べられているものがある一方、その土地独自の米料理もある。そこで日本にはどんなお米料理があるのか調べてみることにした。日本全国のお米料理を調べてみると、その土地でよくとれる物と結びついていることがわかった。

#### 2 時限目：【どこのお米かな？】

ラオスのもち米を実際に炊き、ティップカオと呼ばれる竹でできたかごに入れ、教室に持っていった。子どもたちに見せてから、ちょっとずつ手に取らせ、丸めて食べさせた。ラオスでの食べ方と同じである。まだどこのお米かは明かさない。

子どもたちは、初め不安そうに口にしてしたが、もちもちした食感とふわっと鼻に抜けるいい香りにあっという間に魅せられ、何人もの子がおかわりをしていた。子どもたちに感想を聞いてみると、「おいしい。」「もっと食べたい。」「いつも食べているお米と違う。」というものが多く聞かれた。

そこで、「どこのお米だと思う？」と聞くと「日本じゃないと思う。」「アメリカかな。」「インドだよ。」という返答だった。ここで「これはラオスという国のお米だよ。」と明かすと、子どもたちは一様にポカンとした表情だった。ラオスという国が子どもたちの知識の中になからである。しばらくすると地図帳を出してラオスの場所を調べ始める子ど



もち米を入れるティップ・カオ（教室では実物を使用）

もが出てきた。そこで、ラオスのもち米を食べて子どもたちの中に浮かんだ疑問を書き出させ、調べていくことにした。



ご飯を蒸す鍋とカゴ

（本の記述とこの写真から蒸し方をイメージさせた。カゴは実物も使用）

#### 3 時限目：【ラオスのお米を調べよう】

子どもたちから出された疑問をまとめ、いくつかのグループに分けて調べ活動を行った。子どもたちから出された疑問は以下の通り。

##### <米の種類について>

- ・日本のお米とラオスのお米の違いは？（長さ・におい・色）
- ・ラオスでは、いつもモチ米を食べているのか？
- ・ラオスの周りの国では、どんなお米を食べているのか？

##### <米の作り方>

- ・米を作っているのは水田なのか？
- ・作っている時期はいつか？
- ・日本とお米の作り方に違いはあるか？

##### <ご飯の作り方>

- ・どのようにたいているのか？

##### <ご飯の食べ方>

- ・おかずと一緒に食べるのか？
- ・なぜカゴを使うのか？
- ・食べるときにはいつも手を使うのか？
- ・はしはあるのか？



### <米の使い方・料理>

- ・ラオスの米料理にはどんなものがあるのか？
- ・ラオスにもモチはあるか？

### <ラオスについて>

- ・どこにある国か？人口は何人か？
- ・どんな言葉を使っているか？米をラオスでは何と  
いうのか？

### 4 時限目：【ラオスのお米からわかったこと を伝え合おう】

子どもたちが調べたラオスの米作りの様子やご飯の食べ方についての発表をした。子どもたちが調べたことを下にまとめる。

### <米の種類について>

- ・日本で食べられているのは、ジャポニカ米というお米で、うるち米とモチ米がある。
- ・ラオスで食べられているのは、インディカ米というお米で、うるち米とモチ米があるが、ラオスではもち米を良く食べる。
- ・周りの国ではインディカ米のうるち米を食べているところが多い。

### <米の作り方>

- ・米を作っているのは水田もあれば、陸稲もある。
- ・ラオスは1年に2回ほどお米がとれる。
- ・日本は機械で作業をするが、ラオスでは代かき以外は手作業が多い。家族で仕事をしている。

### <ご飯の作り方>

- ・つぼのような鍋に水をいれ、その上にお米の入ったかごをのせて火にかけ、30分くらい蒸す。

### <ご飯の食べ方>

- ・ご飯によく合う「ラープ」というおかずなどと食べる。
- ・もち米なので、日本と同じように茶碗にしてしまうとくっついてしまう。だからかごに入れて食べる。
- ・ご飯は手で丸めるが、おかずは箸、スープなどはスプーンを使う。

### <米の使い方・料理>

- ・ラオスには、お米を使った料理がたくさんある。スイーツもあった。
- ・モチのようなものは1種類しかなかった。

### <ラオスについて>

- ・ラオス語を使っている。タイ語と似ている。モチ米は「カオニャオ」といい、うるち米は「カオジャオ」という。

子ども同士で見合うことももちろん学習にはなるが、今回はラオスの方をゲストティーチャーとして呼び、子どもたちの発表を聞いてもらった。受身でラオスの情報を聞くよりも、自分たちが調べたことについてラオスの話を聞くほうがより子どもたちの中に入っていきやすいと感じたからである。発表が終わった後には、感想とラオスでのお米の作り方や食べ方について少し話してもらった。子どもたちは、発表をほめてもらって嬉しそうだった。

この授業までに、子どもたちはラオスの米作りやお米の食べ方について調べてきたが、本やインターネットを使っても情報自体が少なく、思うように調べられなかったこともあった。ラオスの人に直接質問ができてわかったこともある。子どもたちがラオスのお米は粘り気があるからお餅にしても食べているのではないかと予想していたのだが、いくら調べてもお餅らしき物はでてこなかった。質問して聞いてみるとお餅は食べないと言われ、びっくりしていた。

最後に日本との共通点・相違点をまとめた。相違点としては、食べ方や道具が違う（箸・手／茶碗・かご／炊飯器で炊く・かごと鍋で蒸す）、米の育て方が違う（機械・手）などがあげられた。共通点としては、日本でもラオスでもお米を食べていること部分的には箸を使うところや、おかずといっしょに食べていること、ご飯を炊く時間などが出てきた。

**授業後の子どもの感想より**

- ラオスと日本の違いがいっぱいあってびっくりしました。特にお米を1年に2~3回も作っていたこととご飯を手で食べることにびっくりしました。
- 私は、あまり外国のことなどを知らなくて、自分と同じお米を食べている人なんてあまりいないんじゃないかと思っていました。でも友だちの発表を聞いて外国にもお米を食べている国があるんだということがわかりました。
- ラオスの料理を一度食べてみたいです。
- ラオスのことが少しわかったので、ラオスに行って米作りをやってみたいです。
- ラオスの方に聞いたら、北と南では食べるものが違うといっていました。日本でも北海道と沖縄でも違うので、同じなんだなと思いました。

**5 時限目：【世界の米料理を調べよう】**

日本、ラオスと調べてきたが、他の国でもお米を食べているだろうということは、子どもでも予想がつく。そこで担当の国を決め、冬休みの宿題としてお米料理を調べてくることにした。発表は冬休み明けになる。

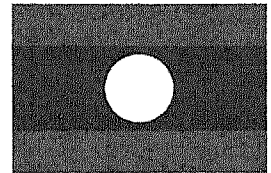
**(5) 参考文献(引用文献・参考資料)**

- 『世界の食文化④ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー』 森枝卓士 農文協 2005
- 『ラオス農山村地域研究』 横山智 落合雪野 めこん 2008
- 『旅の指さし会話帳 ラオス』 亀田正人 情報センター出版局 2005
- 『地球の歩き方 ラオス』 ダイヤモンド社 2000

**(4) 授業実践を終えて**

今回は、お米を中心にラオスの授業を組み立てた。5年生の学習では、お米を作る体験学習も行ってきているため、具体的に比較しやすいと考えたからである。そして、実際に食べてみたり、その国の人と関わったりすることは子どもたちにとってインパクトのあるものだと感じた。写真やビデオももちろんよいと思うが、本物と出会わせる意義は大きいと思った。お米という物を通して子どもたちの中に「ラオス」が少しずつ浸透し、ラオスを好意的に見ていたことも私は嬉しく感じた。成果としては、社会科の学習とつなげて授業ができたこと、子どもたちの反応も良く、意欲的に学習できたことが挙げられる。課題としては、米にスポットを当てたためそこに住む人の思いなどに余り目を向けられなかったということ、ゲストティーチャーにラオスや日本への思いを聞いてみてもよかったのではないかなということが挙げられる。

# 「豊かさ」って何だろう？



Laos

滋野 卓也

品川区立延山小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：市民科
- 時間数：3時間
- 対象：小学6年生
- 対象人数：28名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・ラオスを通して、「豊かさ」について考える。
- ・様々な価値観にふれ、自分自身（の生活）を見つめ直す。

## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【「豊かさ」って何だろう？】 「豊かさ」とは何かを考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が「豊かさ」について考える。</li> <li>・20枚の「豊かさカード」に加える3つの「豊かさ」を考え、生活班で話し合う。</li> <li>・23枚の「豊かさカード」の中から、指定された数だけ生活班で話し合って選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かさカード」</li> <li>・パワーポイント</li> </ul>
2	【ラオスってどんな国？】 文化や価値観の異なる、ラオスやラオスの人々の生活の様子を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの写真を見たり、教師の話の聞いたりして、ラオスやラオスの人々の生活の様子を知る。</li> <li>・日本との相違点について考え、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ラオスの写真</li> </ul>
3	【本当の「豊かさ」って何だろう？】 異なる考えや価値観にふれ、もう一度「豊かさ」について考える活動を通して、自分自身（の生活）を見つめ直す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの人たちの様子や「豊かさ」についての友達の考えをもとにもう一度、「豊かさ」について考え、生活班で話し合う。</li> <li>・生活班で考え決定した「豊かさ」を、その理由と合わせて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊かさカード」</li> </ul>

## 〔3〕授業の詳細

海外研修前の7月中旬、次の3つの質問を本学級児童に行った。

Q1. 1日の中で好きな時間はいつですか。

A1. 遊んでいる時（14名）、習い事の時間（5名）、家族といる時（3名）、本を読む時、ゲームをしている時（各2名）、休み時間、ランチタイム、何かを作っている時、帰り道友達と話している時、放課後家にいる時（各1名）

Q2. みなさんにとって、「宝物」とは何ですか。

A2. 家族（16名）、友達（7名）、命（6名）、

サッカーの道具（2名）、時間、犬、ゲーム、家、グローブ、思い出（各1名）

Q3. 日本についてどう思いますか。

A3. 先進国で恵まれている、豊かな国でとてもいい国、先進国だから便利、小さいけど、すごいことをしている、平和な国、緑がいっぱいあっていい、清潔な国、小さい国なのに大きいことをやっている、食べ物や道具も豊富だけれど、ちょっとつかいすぎているような気がする、環境が悪い、経済が悪くなっている、ちょっと欲張り、輸入に頼りすぎている、食料をむだにしている

また、世界地図をプリントし、ラオスの場所に色を塗らせたところ、正解者（ほぼ正解も含め）は第6学年56名中9名であった。

ラオスで様々な人達と出会い、様々な価値観や教育観にふれ、感じ、思い、考えたことを子どもたちに伝えたいという思いと、このアンケートをもとに、海外研修後、本授業を構成していった。

**1 時限目：【「豊かさ」って何だろう？】**

まずは唐突に「豊かさって何だろう？」と問いかけた。「お金」「友達」を挙げる児童もいたが、何も思い浮かばない子やどう答えていいのか分からない子も少なからずいた。

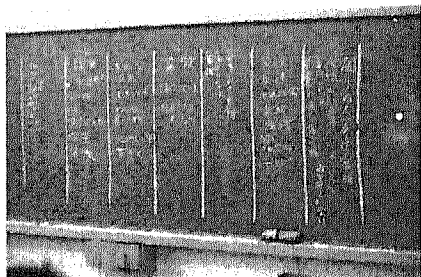
「豊かさって何だろう？」とは、私がラオス滞在中によく考えたことであり、これから3時間、ラオスという国を通して、「豊かさ」について考える学習を行っていくことを児童に伝えた。

次に、【豊かさカード】を児童に配布した。20枚の「豊かさカード」以外で、自分の生活を「豊か」にするものを3つ、生活班で話し合っ追加させた。

**【豊かさカード】**

「豊かさカード」				
きれいな空気	流行の服	時女	携帯電話	
清けつな水	自転車	心地よい家	カーエアコン	
栄養のある食べ物	パソコン	自分の意見を述べてそれを聞いてもらう	自分の部屋	
お菓子	洗濯機	自分の信じる宗教をもつこと	虐待されたり放置されないこと	
テレビ	差別されないこと	信用できる医療	自由に使えるお金	

その23枚の「豊かさカード」の中から、くじで指定された数だけ自分の生活を「豊か」にしてくれるものを話し合い、決定させた。各班で選んだ結果は次の通りであった。

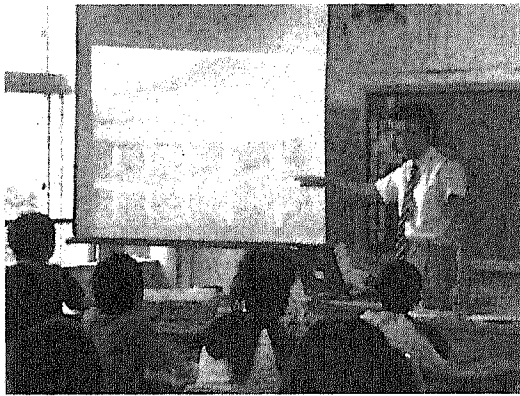


班	追加した「豊かさ」	選んだ「豊かさ」
A	風呂、車、家族	清潔な水、栄養のある食べ物、教育、差別されないこと、心地よい家、家族、自由に使えるお金
B	家族、友達、本	テレビ、差別されないこと、心地よい家、信用できる医療自由に使えるお金、友達
C	周りの人、友達、恋人	清潔な水、栄養のある食べ物、周りの人、虐待されたり放置されたりしないこと、心地よい家
D	友達、ゲーム、家族	きれいな水、清潔な水、栄養のある食べ物、信用できる医療自由に使えるお金、家族
E	趣味、家族、動物	清潔な水、栄養のある食べ物、家族
F	習い事、車、エアコン	きれいな空気、清潔な水、心地よい家、栄養のある食べ物、自由に使えるお金、自転車パソコン、差別されないこと、教育、信用できる医療、虐待されたり放置されたりしないこと、
G	遊び、休日、家族	きれいな水、清潔な水、心地よい家、栄養のある食べ物、家族

**児童の感想**

- 「豊かさって何」と言われても、ぼくははっきりとは答えられません。でも、ぼくから見た豊かさというのは多分「家族」がいて、「友達」がいて、そしてきっと今「生きている」ということなんだと思います。
- 家族や信頼できる人がいることが一番大切だと思います。家族や信頼できる人がいないと、私は何もできないと思うからです。みんな家族や信頼できる人に支えられて育ってきているし、いないとさびしいから必要だと思います。
- 私たちが生活するのに大切なことだと思います。国が豊かであればきっといい生活ができると思うし、豊かでなければ不十分な生活だと思います。
- 「豊かさ」の量が少なくても、豊かになると思います。たしかに豊かさが多ければ豊かだけど、それと逆に豊かさが多くて困る事があるかもしれません。
- 多ければ豊かなのかなあと思ったけど、少ない方はすごく大事なものをしぼってなったけど、多い方は大事な物にこまごまと入れたから、多ければ「豊か」じゃなくて、少なくとも本当に大事な物を選べば「豊かさ」は同じだと思う。

2時限目：【ラオスってどんな国？】



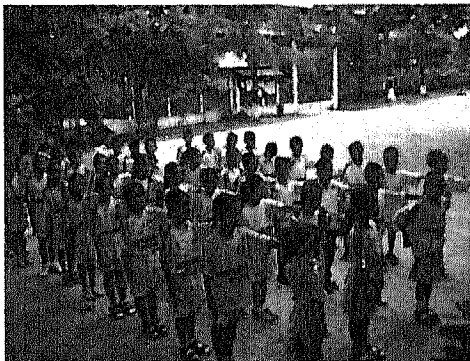
私も同じだったが、多くの子どもたちにとって、ラオスはどこにあるのかわからない、ラオスがどういふ国なのか全くイメージがわからないという状態であった。

そこで、【ラオスの写真】をスクリーンに映し、子どもたちに説明しながら紹介を行った。

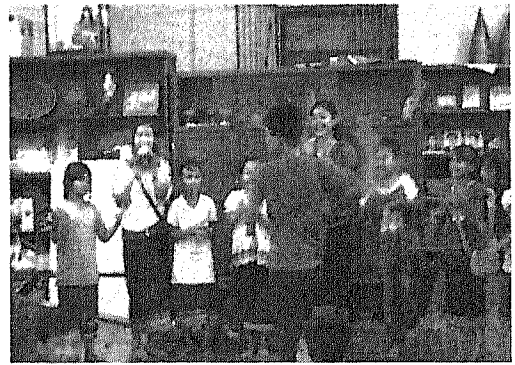
【ラオスの写真】（使用写真の一部）



ビエンチャンの小学校



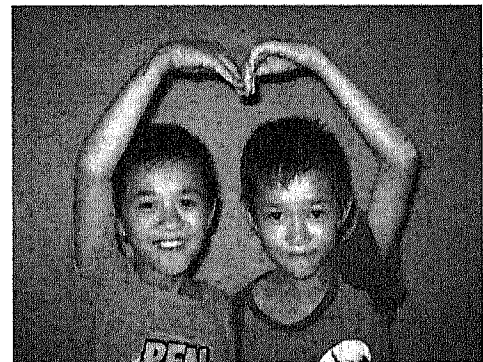
体育を行う子どもたち



ルアンパバン子ども文化センター



遊びに興じる大人たち



ルアンパバンの子どもたち

紹介後、学校の様子を中心に日本とラオスの相違について考え、話し合わせた。

最後に「私がなぜ豊かさについて考えるようになったのか」について、子どもたちに次のような話をした。

ラオスは決して経済的・物質的に恵まれた国ではなく、世界最貧国の一つとされています。

私はラオスを訪れる前は、貧しい人が町中に溢れていることを想像していました。

しかし、実際にラオスを訪れてみると、町は清潔で、物乞いをしている姿を少なくとも私は一度も見ることはありませんでした。自給自足の生活で、食べ物や住むところに困っている人は少ないそうです。

ピエンチャン市内の Thong Kang 小学校やルアンパバン市内の子ども文化センターの子どもたちと交流する機会がありましたが、彼らの生き生きとした表情や純真さ、純朴さ、穏やかさ、優しさ、目の輝きといった多くのものに非常に感動しました。

大学生の頃、暉峻淑子さんの『豊かさとは何か』（岩波新書）という本を読みました。その本をきっかけとして、私は当時議論されていた「学校5日制」を卒業論文のテーマとしました。

教師になり、毎日を慌しく過ごしています。家が遠くなったこともあり、家族と全く話をしない日もあります。ラオスの人たちは家族をとて大切にします。ラオスの仕事に対する優先順位は低く、家族と仕事の比率は8:2ほどで、家族との時間を犠牲にして残業をしたり、職場とのつき合いを優先したりすることはないと聞きました。

ラオスにいと、時間の流れが非常にゆったりとしていて、そのゆったりとした時間の中を人々は穏やかに、かつ、生き生きと生活しているなと感じました。

ラオスを訪れてラオスの子どもたちとふれ合っていく中で、ラオスは本当に「貧しい」のだろうか。そもそも日本は本当に「豊か」なのだろうかと大学生の時代以来再び「豊かさ」について考えるようになりました。

日本に戻って、2学期が始まりましたが、みなさんが行う多くの学習には、「答え」というものがあります。しかし、私は「豊かさとは何だろうか」という「答え」のないものを考え、話し合い、みなさん一人一人が思っていることや考えていること、大切にしていることなどを共有する学習にしたいと考えました。

### 3時限目:【本当の「豊かさ」って何だろう?】

1時限目に23枚の「豊かさカード」の中から選んだ「豊かさ」についてもう一度考え、話し合いを行った。そして、なぜ、それらを選んだのか、その理由もあわせて各班で発表を行った。

#### 児童の感想

- 本当の豊かさとは、家族や友達がいる、お金の面では貧しくても、温かく優しい人がいて、その人と一緒にいられて、毎日を本当に楽しく過ごせることじゃないかなと思いました。お金とかがたくさんあっても、家族や友達がいなくちゃ楽しくないから、お金とか経済的なことは関係ないんだなと思いました。

- 「豊かさ」は人によってちがうと思います。日本人はパソコンを知っているけれど、知らない人はパソコンという物を知ってないから、その人にとってパソコンは豊かではないということになると思います。豊かさはその人自身だと思いました。

- 日本とラオスだったら、日本の方が豊かに見えるけど、ラオスの子どもたちがみんな楽しんで遊んだりしていたから、ラオスも豊かだなと思った。

- 私の班は家族や友達に豊かさを求めました。でも、そんなのに、豊かさを求めてもいいのかなと思いました。だって家族や友達は本当に豊かであるべきものだと思うからです。もし、ラオスの子どもたちに同じ様な質問をしたら、絶対にこの様なものはあげないと思いました。

- 私が思う本当の豊かさは友達や家族がいるということかなと思いました。ラオスの子はみんな仲がよさそうであらやましかったです。日本はパソコンやゲームなどたくさん便利でおもしろい物があるけれど、私はみんなと仲良くできる環境がいいです。でも、日本は清潔な水や栄養のある食事、信用できる医療などがいいところだと思いました。それぞれのいいところが合うといいなと思いました。

## (4) 授業実践を終えて

3時間の授業を終え、次のような成果と課題があった。

#### 〈成果〉

- 私自身がラオスで体験したことをもとに授業を構成したことにより、児童のラオスや異文化に対する興味・関心を高めることができた。
- ただラオスを紹介するだけでなく、「豊かさ」という視点を与えたことにより、話し合い活動の論点が著しく外れることはなかった。

#### 〈課題〉

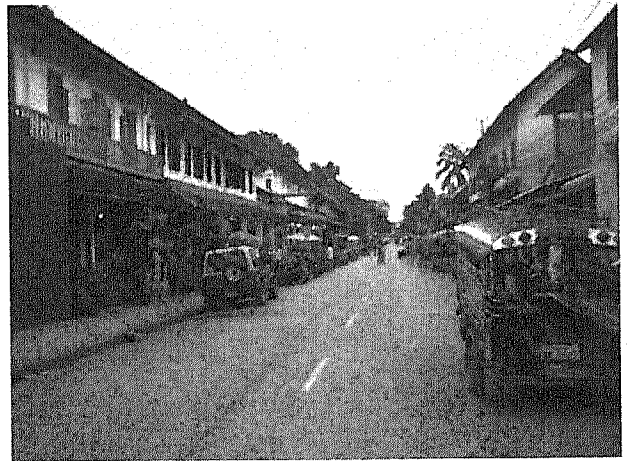
- 私自身、ラオスで体験したことやそこで思ったり考えたりしたたくさんのお話を伝えたいという思いが強すぎて、やや授業の焦点が絞りきれなかった。今後、「フォトランゲージ」等の手法を身につけていきたい。
- 「豊かさ」があまりに漠然としたものであるため、6年生の実態としてはやや内容が難しかったように思われた。そのため、本当の「豊かさ」についての話し合いをあまり深めることができず、

1時限目と3時限目で児童の「豊かさ」に対する思い、考えの大きな変化が見られなかった。

ラオスは決して経済的・物質的に恵まれた国とは言えない。それでも（だからこそだろうか）人々の表情、目の輝きから私は「豊かさ」を実感させられた。

日本の教育をよりよくするヒントはラオスにある。ラオスの子どもたちを見ていたら、（漠然とした直感的なものであるが）そう感じた。

本授業により、「豊かさ」について考える活動を通して、自分自身や自分自身の生活を振り返り、グローバル化や発展途上国の問題など国際社会の諸問題に児童が興味・関心をもつ一助になればと願う。



### 〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『豊かさとは何か』 暉峻淑子 岩波書店（岩波新書） 1989
- 『ラオスすてきな笑顔』 安井清子 NTT出版 1998
- 『ラオスいとしい国—私が出会った女性たち』 前田初江 段々社 2002